

特 許 協 力 条 約

P C T

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

〔P C T 36 条及び P C T 規則 70〕

| | | | |
|---|---|--------------------------------------|--|
| 出願人又は代理人 の書類記号 A41305A | 今後の手続きについては、様式 P C T / I P E A / 4 1 6 を参照すること。 | | |
| 国際出願番号 P C T / J P 2 0 0 4 / 0 1 0 2 7 2 | 国際出願日 (日. 月. 年) 1 3 . 0 7 . 2 0 0 4 | 優先日 (日. 月. 年) 1 4 . 0 7 . 2 0 0 3 | |
| 国際特許分類 (I P C) Int.Cl. ⁷ A 6 1 C 1 7 / 0 0、1 9 / 0 0、A 6 1 B 1 / 2 4 | | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 昭和薬品化工株式会社 | | | |

| | |
|---|--|
| <p>1. この報告書は、P C T 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (P C T 36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>4</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で _____ ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (P C T 規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第 802 号参照)</p> <p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 P C T 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p> | |
|---|--|

| | | | |
|--|---------------------------------------|-----|---------|
| 国際予備審査の請求書を受理した日 1 3 . 0 7 . 2 0 0 4 | 国際予備審査報告を作成した日 0 1 . 0 6 . 2 0 0 5 | | |
| 名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 山口 直 | 3 E | 8 5 1 0 |
| 電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 4 6 | | | |

様式 P C T / I P E A / 4 0 9 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第_____ ページ、出願時に提出されたもの

第_____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第_____ 項、出願時に提出されたもの

第_____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第_____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第_____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第_____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第_____ ページ

☐ 請求の範囲 第_____ 項

☐ 図面 第_____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第_____ ページ

☐ 請求の範囲 第_____ 項

☐ 図面 第_____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | |
|---------------|-------------|---|
| 新規性(N) | 請求の範囲 2-8 | 有 |
| | 請求の範囲 1 | 無 |
| 進歩性(IS) | 請求の範囲 2-5 | 有 |
| | 請求の範囲 1、6-8 | 無 |
| 産業上の利用可能性(IA) | 請求の範囲 1-8 | 有 |
| | 請求の範囲 | 無 |

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: J P 10-33576 A (京都機械工具株式会社)

1998. 02. 10

文献2: J P 9-82101 A (株式会社精工舎)

1997. 03. 28

文献3: J P 2003-165924 A (日本板硝子株式会社)

2003. 06. 10

文献4: J P 2002-205500 A (豊田合成株式会社)

2002. 07. 23

請求の範囲1に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。文献1に記載された発明も、蛍光樹脂からなる歯周ポケット測定及び探針用プローブであり、医療用発光装置のひとつである。

請求の範囲6に係る発明は、文献1と、国際調査報告で引用された文献2とにより進歩性を有しない。文献2の【請求項4】及び【0002】により教示された「発光素子として蓄光性蛍光体を利用した物理発光、化学発光を用いる」構成を、文献1の装置に適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲7に係る発明は、文献1と、文献2とにより進歩性を有しない。文献2の【請求項4】及び【0009】により教示された「化学発光装置に、ルミノール、または、しょう酸エステルを用いる」構成を、文献1の装置に適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲8に係る発明は、文献1と文献2と、国際調査報告で引用された文献3及び文献4とにより進歩性を有しない。文献3の【0023】により教示された、

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

「蓄光材料として、アルミン酸ストロンチウムを用いる」構成、及び、文献4の【0024】により教示された「蛍光材料として、ユーロピウムを用いる」構成を、文献1の装置に適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲2-5に係る発明について、「発光体又は蛍光体を有するマウスピース」の構成は、国際調査報告書に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

したがって、請求の範囲2-5に係る発明は、国際調査報告書に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。